

1 本年度の学校教育目標及び学校経営の基本方針

- 校訓「自主・協和・創造」
- 学校教育目標「自主・協和・創造の精神に富んだ心身ともに健康な生徒の育成」
- 探求キーワード「どんな仕事に就いて、どんな大人に生りたいか？」
 - 【めざす学校像】地域づくりの要となる学校
 - ・生徒の自立の上に秩序が保たれている学校
 - ・確かな学びが保障される学校
 - ・活気にあふれ、美しい学校
 - ・地域に開かれた学校
 - 【めざす生徒像】生涯、支えあい協力しあえる地元の仲間となれる生徒（生涯の絆「いちい」上条、仲間づくり）
 - ・健全な心身を持ち、命を大切にする生徒
 - ・心豊かで、思いやりのある生徒
 - ・基礎学力の身についた生徒
 - ・自らの生き方を探求する生徒
 - ・基本的生活習慣が身に付いている生徒
 - 【めざす教師像】親身に接し、何事にも誠実に取り組む教師
 - ・基礎基本の定着・確かな学力の向上をめざし、自己研鑽に励む教師
 - ・研修に励み、学び合い、「切磋琢磨」する教師
 - ・生徒一人一人の尊厳を尊重しながらも、厳格な姿勢で指導できる教師
 - ・教師としての使命感・専門職意識を持ち、生徒・保護者の信頼に応えられる教師
 - ・組織の一員としての自覚を持ち、行動がとれる教師
- 学校経営の基本方針
 - ・確かな学力の育成：基礎基本の定着を図り、「考える力」を身につけた生徒の育成（知）
 - ・豊かな心の育成：協和の心（思いやり・感謝・素直）を持ち、善悪の判断ができる生徒の育成（徳）
 - ・健康な心身の育成：基本的生活習慣を確立し、心身共に健康で自他の命を大切にする生徒の育成（体）
 - ・人を豊かに育むための教育環境の構築：施設設備の安全に生活するための管理と人的環境整備の継続的な実施（教室環境）

2 学校評価の項目設定について

学校評価の自己評価項目は、校長の示す学校教育目標および学校経営の基本方針・指導重点をもとに、今年度は、昨年度と同様に評価項目を8つに分類し、具体評価項目を20問設定した。

今年度は、新型コロナウイルスの拡大が継続する中であるが、4月から学校生活が通常通り実施できたので、学校評価を12月1回のみの実施とした。

教職員は、これらの視点で教育活動が営まれているかを振り返り、生徒と保護者のアンケート調査結果とともに内容を分析しながら、よりよい改善策を見出し、次年度に生かせるようにする。

【評価方法の概要】

「学校評価」

○実施期日：令和3年12月

○実施対象：教職員27名、参考調査として、全校生徒及び保護者

○調査内容：教職員自己評価（7項目、20問）

生徒アンケート（13問）、保護者アンケート（14問）

3 全体考察

(1) 教職員による自己評価

【学校経営】

「②子どもたちは、明るく学校生活を送っている。」「③報告・連絡・相談が徹底され、情報の共有化と教職員間の連携が図られている。」の値が下がっている。②はコロナ禍であるため、生徒間の身体的距離が制限されている。③は、昨年度・今年度と多くの教職員が入れ替わったために値が高くなったと考えられる。

【教育課程】

2項目共に上がった。今年度は休校処置や学年・学級閉鎖もなく過ごすことができ、授業時数の確保も行われたためと考えられる。

【学習指導】

4項目共に少し下がった。コロナ禍で制限があるために、十分な指導ができていないと感じているためと思う。

【生徒指導】

「③生徒が集団生活に必要な決まりやマナー（時間・服装・交通ルール等）を守るよう、適切な指導が行われている。」は、大きく下がった。約4割の先生が不満足群にいる。これも、教職員の入れ替わりによりと思う。他校に比べ、生徒の自主性に任されている面が多いので、そのように感じてしまっている。

【家庭・地域との連携】

コロナ禍により、授業参観を含め学校行事に保護者が参観できないことが大きく影響している。形を変え、できるだけ学校の様子を見てもらう機会を作っていくことが望まれる。

【学校の特徴】

3項目共に下がった。特に「①朝の読書活動により、読書習慣の確立が図られていたり、合唱活動やボランティア活動により、情操教育の推進が図られている。」は、分散登校をしているため朝読書の時間が確保されていないこと、担任が登校生徒の対応をしているために実施が不十分であると考えられる。

【教育環境整備】

「①多忙化改善の取組6項目（会議等の効率化・学校行事の負担軽減・校内組織の見直し・業務の効率化・部活動の負担軽減・地域人材の活用）が、推進されている。」が、大きく下がった。教職員の入れ替えと感染症関連の取り組みや事務作業が大きく影響していると考えられる。

どの項目も、コロナ禍と教職員の大量入れ替えが大きく影響していると考えられる。教職員間の連絡・調整をしっかりと図り、先生方の意識を一つにしていくことが、コロナ禍を乗り越えるために必要な力となってくる。そのためにも、学級経営の充実化をしっかりと図り、主任を中心とした学年経営を計画的に行っていくことが大切になっていく。また、各分掌で課題をしっかりと把握し、改善するための方策を個人ではなくチームとして考え、取り組んでいくことが必要である。コロナ禍を乗り越えるためにも、気持ちを持って臨んでいきたい。

(2) 生徒アンケート

満足群 (A+B) 90%以上 5項目 (昨年度8項目)

- 2 友達と仲良く生活することができましたか？ (95.2%)
- 4 先生は親身になって話を聞いてくれたり、丁寧に勉強を教えてくださいましたか？ (94.9%)
- 7 学級・学年の活動（係分担、掃除等）で、自分の役割をしっかりと果たすことができましたか？ (96.2%)
- 8 学校の決まりや約束事が守れていますか？ (95.2%)
- 9 あいさつをしっかりとしたり、思いやりを持って生活することができましたか？ (93.9%)

不満足群 (C+D) 25%以上 2項目 (昨年度2項目)

- 6 家庭で学習にしっかりと取り組むことができましたか？ (25.9%)
- 11 ボランティア活動に積極的に取り組みましたか？ (48.3%)

①学校生活全般（１～３）

３項目とも満足群８０％以上になっている。このことから、大半の生徒は、学校生活や友達関係に問題を感じてはいない。しかし、１・３と昨年度より不満足群が多くなっていることは、注意していかなければならない。生徒間の人間関係が崩れることは、学習不振や人間不信につながり、学級に入れない生徒を増やすことになってしまう。そうならないためにも、担任はもちろん、学年職員や教科担当教師は注意深く生徒を観察し、教師間での情報交換を密にしていくことが大切である。また、担任は生徒の声だけでなく、表情や仲間との関係を観察し、できるだけ多くの生徒に声掛けをしていくようにしていく必要がある

②学習面（４～６）

教師と生徒の人間関係も良好で、授業も落ち着いた中で行われていることが４・５から伺える。６家庭学習についても、ノーメディアの取り組みの成果もあって、昨年度より数値が上昇した。しかしながら、不満足群も約２６％と高い値を示している。授業の改善に今後も取り組んでいく中で、授業と家庭学習を意識した課題設定をしていくことも必要だと考える。

③生活面（７～９）

３項目とも満足群が９０％以上になっている。落ち着いた学校生活で過ごすことができているからと考えられる。ただ、３項目とも僅かであるが不満足群が増えている。自己分析や他者観察をする中で、できていないと判断する生徒が増えてきていると考えられる。落ち着いているときだからこそ、清掃などの係活動や決まりの再認識を生徒と共に行っていく必要があると考える。

④部活動他（１０～１１）

部活動は、朝練練習や放課後の活動時間の確保などがあり、生徒の満足度は上昇したと考えられる。委員会活動は、決まった活動は取り組んできたが、発展的な取り組みはできていなかったと感じる。ボランティア活動は昨年度の値を大きく下回った。校外での活動は難しい面があるので、校内でできる活動に焦点を当て、取り組みを考えていく必要がある。少年議会での取り組みや本校として必要な環境整備など、委員会を中心に取り組み、広報や放送などを利用して意識を高めていく必要がある。

⑤家庭生活（１２）

満足群は、昨年度より上昇している。ノーメディアの取り組みの成果の一端が出ている。しかし、２０％以上の生徒が不満足群にいることを考えると、要注意である。学習面だけでなく、起床・就寝時間を守る、朝食を食べる、メディアの使用時間等、家庭と連携して取り組んでいく必要がある。学年総会や学級懇談会、三者懇談等の中で、保護者にも情報を発信し、一緒に考えていく必要がある。

（３）保護者アンケート

満足群（A+B） 90％以上 0項目（昨年度1項目）

80％以上 4項目（昨年度5項目含90％以上）

- 1 生徒たちは、明るく楽しい学校生活を送っていると思いますか？（89.7％）
- 2 本校の教師は、熱心に日常の教育活動に取り組んでいると思いますか？（82.7％）
- 5 健康づくり・体力づくりへの取り組みは、適切に進められていると思いますか？（80.4％）
- 8 交通安全や防犯・防災のための取り組みは、適切であると思いますか？（84.7％）

不満足群（C+D） 25％以上 0項目（昨年度0項目）

20％以上 0項目（昨年度1項目）

分からない群（E） 20％以上

10 上条中学校は、「特色ある学校づくり」に取り組んでいると思いますか？（31.7%）

11 上条中学校は、「開かれた学校づくり」に取り組んでいると思いますか？（23.8%）

12 今年度のPTA活動は、内容や組織など適切であると思いますか？（28.4%）

①学校生活全般（1）

昨年度より下がったが、生徒と同じ傾向を示したことから、安心感を抱いていると考えられる。

②学習面（2・3）

2は若干下がったが、3は上昇した。保護者の入れ替えがあるので、その分を考慮すると上昇と捉えて良いと考える。

③道徳・体力づくり・社会性等（4～6）

どちらも80%前後の満足群であるので、良好であると考ええる。

④生徒指導・安全・施設（7～9）

3項目とも75%以上の満足群であった。特に、7生徒指導面は昨年度を上回ったことから、生徒指導部の共通理解や学年・学級の取り組みが保護者にも理解されていると考える。

⑤特色・開かれた学校（10・11）

2項目とも昨年度を下回った。しかし、A（良くできた・とてもそう思う）は昨年度を上回っていることから、学校だよりや学年・学級通信の発行、HP上での情報発信等が一因になっていると考えられる。

⑥PTA活動（12）

昨年度より数値が下がった。「今年度はできる」と考えていたことができずに終わってしまったことが、影響していると考えられる。コロナ禍が続く中での活動について、P本会役員と学校職員が情報交換をしながら、生徒のためにできることに取り組んでいくことが大切であると考ええる。

⑦全体を通して

昨年度に比べ、E（分からない）を選んだ保護者が多くなった（12項目全て）。コロナ禍であるため、授業参観や学園祭等の参観ができなかったことが大きく影響をしていると考えられる。直接生徒の活動や学校生活を見ることができなかったことは、保護者の学校理解や協力等が得られない一因となっている。それを防ぐためにも、通信はもちろん、実際に生徒の姿を直接見てもらう機会や場を、工夫して作っていくことに取り組んでいきたい。

（4）学校関係者評価（学校評議員やPTA役員からの意見を集約）

令和4年2月22日（火）第2回学校評議委員会を開き、評議委員から学校評価について御意見をいただいた。

○コロナ禍で学校運営は大変であったと思う。

○先生方は、仕事量も多く大変である。

○アンケート結果をまとめることは、大切なことである。

○ネットを利用した仕事、学習は今後当たり前になってくる。今までは教師と生徒が対面して授業や活動に取り組むことで、お互いに絆ができていた。今後はネットを通じて作っていくことが出てくるが、大変だと思うが取り組んでいって欲しい。

○学校のホームページの工夫が望まれる。生徒の活動の動画や写真等があると、学校生活の様子が保護者や一般の方に一層伝わっていく。

○挨拶をしていると生徒からも返ってくる。地域も一緒にあいさつ運動を推進していくためにも、地

域に声をかけて取り組みが広がるようにして欲しい。また、小学校とも連動して取り組みを進めて欲しい。

○挨拶は思いやりの心にも通じる場所があるので、これからも続けて欲しい。

○朝読書や読書の時間の確保が難しい。読書記録をネット上に作成して、活用していく方法もあるのではないか。本から学ぶことも多いので、今後も読書活動の推進をして欲しい。

○学校給食の残食が多いので、食育をしっかりと取り組んで欲しい。将来の自分の健康と身体を作っていくことなので、生徒に伝えて欲しい。

○コロナ禍で大変ではあるが、それぞれの役割が混ざってしまっている現状がある。学校と家庭のそれぞれの役割について再確認し、果たして欲しい。

○小中の連携を一層図って欲しい。出前授業だけでなく、運動面（例えば、陸上競技会の練習指導）での取り組みも考えて欲しい。

評議員からいただいた御意見を参考に、来年度の教育活動に生かしていきたいと考える。